ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	飯田　佐恵

主な担当科目	ピアノ指導法応用Ⅲ,ピアノ指導法応用Ⅳ,音楽教育メソッドⅠ,音楽教育メソッドⅡ,音楽教育メソッド実践Ⅰ,鍵盤演奏基礎Ⅰ,総合ソルフェージュ①,卒業研究,卒業研究のためのレッスン,電子オルガン特別講義,電子楽器研究,ピアノ

2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	セメスター制移行に伴い、通年科目と半期科目が混在することになるが、全学生が違和感なく受講できるよう配慮したい。全学生配付4年目となるiPadの利用を促進し、ICT活用についてさらに工夫を重ねたい。留学生や要配慮の学生など、多様な学生に有意義な学修機会を提供できるよう心がけたい。研究によって得られた音楽教育メソッドの知見を、授業の場で学生たちに還元したい。
2025年の教育に関する自己評価	セメスター制を理解して、スムーズに授業運用ができた。メディア授業である「卒業研究」や電子教科書使用の「総合ソルフェージュ①」以外でもICT環境に対応した授業を展開しており、TeamsやUNIPAでの課題提示・提出、資料配付を促進し、教育効果を実感している。多様な学生に配慮して留学生や要配慮学生には平易な言葉遣いを心がけ、欠席がちな学生には連絡するなど丁寧に対応している。コダーイやオルフの音楽教育研究から得た知識や方法を授業に取り入れて、「音楽教育メソッド」以外の授業において効果が見られた。

2025年のFD活動に関する自己評価	FD全体研修会のほか、関係する部会、分科会のFD研修会に全て出席し、積極的に発言できた。特に1月の鍵盤楽器部会FD研修会では、セメスター制について資料をまとめ、説明した。2025年2月17日のモリサワフォントのオンラインFDにも任意で参加した。
授業改善のために取り入れた研修内容	各FD研修会ではセメスター制について多く取り上げられたので、新年度の履修指導、授業運用や出席指導がスムーズであった。音楽教養コースFDでは卒業研究のためのレッスンについての理解を深めて、実施に役立った。モリサワフォントのオンラインFDでは、プレゼンテーション資料作成について具体的な説明があり、新年度からの教材作成に取り入れた。

2025 年度（春学期）「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：673　教員名：飯田　佐恵

1）アンケート結果に対する所見

「ピアノ指導法応用Ⅲ」で総合的満足度 100％をいただき、大変嬉しく思う。この授業は江口文子先生、林田枝実先生とご一緒に担当させていただいており、先生方のご指導の賜物と感謝申し上げる。オムニバス授業の「ピアノ教養特論Ⅰ」は 1 コマを担当させていただいたのみだが、こちらも総合的満足度 100％となっている。自由記述で私の授業について感想を書いてくださった方がいらして、今後の励みとなる。

「音楽教育メソッドⅠ」は 100％ではなかったが、高い満足度を得た。この授業は、扱う内容ごとに専門の外部講師や特別講師がいらしてくださる。先生方の素晴らしいご指導に改めて感謝する。身体表現を通じて音楽を感じるメソッドを実践するため、経験のない学生たちは戸惑うこともあったと考える。自由記述からもそれが読み取れる。たとえ今、受け止めるのが難しいとしても、これから音楽の学びを深める中で、授業の内容を思い出して共感できるかもしれない。体験したことを今後の演奏や学修に活かしていただければ幸いである。

2）要望への対応・改善方策

自由記述は、今後の授業に向けて大いに参考になるものである。ご意見に感謝する。

「音楽教育メソッドⅠ」の自由記述で、中国人学生との交流を喜ぶ一方で、頻繁に中座する中国人学生の授業態度への疑問が述べられていた。毎授業、トイレを理由に授業を抜ける学生が 2 名ほどいた。注意は毎回しているが、理由が理由だけに、禁止もできない状況である。彼らに関しては他の授業でも同様とのことであり、大学全体で事実を共有して改善策を考える必要があると考える。

留学生に限らず、授業中の中座は時折見られる。配慮が必要な事例もあるため、一律に対応できるものでもない。授業を理解できているか、また授業時間に授業外のことに取り組まないよう、個別に声掛けをして授業の輪に入ってもらうよう心がけている。授業態度は周囲の学生にも影響することが自由記述からもわかる。今後も取り組みを続ける。

3）今後の課題

多様な学生が集まって授業を受ける中で、皆が大学生に相応しい自発的な学修に向かうような環境づくりが大切と考える。音楽は言葉によらずとも理解できることが特徴であり魅力だが、言葉による伝達と教授は不可欠であるため、わかりやすい言葉遣いや伝え方を磨きたい。

以　上

2025 年度（秋学期）「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：673　教員名：飯田　佐恵

1）アンケート結果に対する所見

「ピアノ指導法応用Ⅳ」で総合的満足度 100%をいただき、大変嬉しく思う。この授業は江口文子先生、林田枝実先生とご一緒に担当させていただいており、先生方のご指導の賜物と感謝申し上げる。

「音楽教育メソッドⅡ」も総合的満足度 100%をいただいた。この授業は、扱う内容ごとに専門の特別講師がいらしてくださる。先生方の素晴らしいご指導に改めて感謝する。学生の皆さんには授業内容を今後の演奏や学修に活かしていただければ幸いである。

「総合ソルフェージュ①」は、1 名の方が Q10「この授業を受講して良かった」に「あまり思わない」、Q6「わかりやすくするための工夫」に「思わない」と回答している。一方で自由記述では「とても分かりやすかった」ともあり、個人差があったと認識している。

上記3科目は、授業外学修の時間が少なくなっているのが気になる。

「鍵盤演奏基礎Ⅰ」も総合的満足度 100%をいただいた。履修した皆さんが熱心で、意欲的に取り組んでくださったことに感謝する。あたたかな記述もありがとうございました。「卒業研究」も大変良い評価をいただいた。ご一緒に担当してくださった財満和音先生や、論文の査読をしてくださった鍵盤楽器部会の先生方に感謝申し上げる。

ピアノ個人レッスンも総合的満足度 100%をいただいたが、回答者数が少なかったので、全員に回答してもらえるよう、今年度はさらに呼びかけたいと思う。あたたかな記述もいただき、ありがとうございました。

2）要望への対応・改善方策

「卒業研究」の自由記述で、自分の作業に集中するため「個別で話す時だけ別のルームに移動するなど工夫して」という要望があった。今年度は、そのように授業を進めている。ソルフェージュの授業は、個々の理解の違いを認識して的確なアドバイスができるよう、引き続き心がけて参る。

3）今後の課題

授業アンケート回答率を上げることは重要である。特に個人レッスンが課題と思う。また、授業終了時のアンケートに基づく改善は、次年度または次セメスターの履修者に還元されるため、セメスター途中で意見を聞く機会があるとすぐに活かせて良いと思う。

学生の皆さんの多様な要望や意見を踏まえて、より良い授業を目指したい。

以　上